

経済産業省・独立行政法人情報処理推進機構
第5回 デジタルリテラシーの育成に関するタスクフォース
議事要旨

- 日 時 令和7年7月4日（金）15:00～17:00
- 場 所 経済産業省 未来対話ルーム
- 事務局 経済産業省、独立行政法人情報処理推進機構

1) IT パスポート試験の見直しの方向性について

事務局より、「IT パスポート試験の対象者像及び期待する技術水準の検討結果、並びに分野別評価の活用」について説明が行われた。その後、以下のような討議が行われた。

【全体討議】

（対象者像及び期待する技術水準の検討結果）

- ・ 「IT パスポート試験」という名称については、その名称で広く認知されていることから、今後も変更しない方がよいと思う。
- ・ 新たな試験として世の中に出すときには、どういう試験なのかということを明確に伝えるために、対象者像にしっかりと反映して、プロモーションも兼ねて世の中に浸透させていくことが重要。
- ・ 当社では、現状は、DX 人材の育成は人事部門ではなく DX 推進部門が主体となって対応している。しかし、いずれは DX の基礎スキルも、社会人が最低限必要なスキルとして扱うようになり、人事部門が採用のときなどに判断できるとよい。
- ・ 新しい IT パスポート試験を持っている人と持っていない人を比較して、“持っている人は何ができるのか”という価値を、採用する企業などが見出すことができるかどうか重要。

（分野別評価の活用）

- ・ 「テクノロジー」「マネジメント」という単語は日常の中でも目にすることはあるが、「ストラテジ」という単語は普段目にすることは少ないので、イメージしやすいような分野名称にしてはどうか。
- ・ 「留意点を把握している」「間違いを起こさない」といったセキュリティやガバナンスの観点を IT パスポート試験の中で重視するのであれば、そのような領域が一分野としてあってもよいのでは。
- ・ セキュリティ、法律、コンプライアンス、倫理など、必ず押さえておいてほしい分野

の基準点を高く設定することも考えられる。

2) IT パスポート試験のサービス向上について

事務局より、「IT パスポート試験のサービス向上」について説明が行われた。その後、以下のような討議が行われた。

【全体討議】

- カテゴリ別のスコアのレーダーチャートを示すのであれば、受験者が合格のために目指すべきラインがわかるように、目標点を併せて示した方が良い。
- スコアと併せて、合格基準点からの距離を示してあげることが必要。不合格だったとしても、合格基準点までの距離を示して、フィードバックを充実させるような、モチベーションが下がらないための仕組みを構築すると、再受験を促すことができる。
- 企業が活用する視点で見た場合、前年と今年の受験結果の比較など、継続性の観点で企業が使いやすくなるようなフィードバックが必要。
- 今の IT パスポート試験は、バウチャー利用者のみ、団体の試験結果を管理できるが、個人で受験した場合でも、受験後に企業・団体に試験結果を紐付けられるような仕組みがあるとよい。
- 試験結果レポートで受験者のスコアを提示しているが、スコアの持つ意味合いが分からない。例えば、TOEIC で 900 点と言われれば、多くの人は 900 点の実力をある程度同じ目線で認識できるが、IT パスポート試験のスコアではそうはならない。スコアの持つ意味を継続的に発信していかないと、たとえスコアを提示したとしてもそのスコアを生かすことができない。
- 点数で優劣をつけるには向かないマインド・スタンスについては、自己採点形式にして、「あなたはこのような状態なので、こういったことをもっと学習したほうがいい」といったアドバイスを提示できるような仕組みがあるとよい。

以上

<お問い合わせ先>

経済産業省 商務情報政策局 情報技術利用促進課

電話：03-3501-1511（内線：3971～3975）

独立行政法人 情報処理推進機構(IPA) デジタル人材センター 人材スキルアセスメント部

お問い合わせフォーム：info.ipa.go.jp/form/pub/inquire/itec